



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.30 2022. 12. 25 発行

闇に光を！

ルカによる福音書2章8～20節



クリスマスおめでとう！

牧師 梅津 裕美

今年は12月25日が日曜日でぴったりのクリスマス礼拝となりました。馬小屋の飼い葉おけにお生まれになったイエスさまを最初に礼拝したのは羊飼いたちでした。羊飼いというお仕事は、人々からいやがられていたお仕事でした。なぜなら、オオカミはいつだって🐺たちを襲ってきますから、夜も寝ないで番をしなければなりません。そんなきつい仕事はいやだと人々からは嫌われていたのです。それだけでなく、神さまを礼拝するためにお仕事をしない安息日でもオオカミは襲ってきますから、羊飼いは礼拝に行けずに🐺の番をして働いていました。ですから、律法学者や祭司から、律法破りの罪人だとレッテルを貼られていました。世界の隅っこで、光が当たらない暮らしをしていたのが羊飼いだっただけです。

ところが、神さまはそういう隅っこに生きる人々を見逃してはおられません。むしろ、イエスさまがお生まれになったことを最初にお知らせになりました。その人たちにこそ「良き知らせ」が必要なことを神さまはよく分かっておられたからです。

クリスマスには、いろいろな光があふれます。ライトアップがきれいな場所もあります。でも本当のクリスマスの光は真っ暗な闇の中に生きる人にまばゆい光が訪れるできごとなのです。戦争のつらい1年でした。私たちは自分とは関係ないと思うのでしょうか？ このクリスマスに闇に生きる人々がいます。その人たちは現代の羊飼いたちと言えるでしょう。人々から好ましく思われずに、世界の片隅に置かれている人。戦争の犠牲となって、涙が止まらない人。その人々のことを覚えて、神さまにとりなしのお祈りしましょう。クリスマスの救いの光を届けてくださいとお祈りしましょう。たくさんの光であふれるこの世のクリスマスです。でも教会は救い主の良き知らせ「福音」の聖なる光を発信しましょう！

堀内長老からのメッセージ

このたびのクリスマスでは子どもおとなも限られた時間でしたが対面の祝会が実施でき感謝です。今は行っていないが祝会では聖誕劇があります。聖誕劇はイエスさまの誕生をお祝いするところまでですが、イエスさまは誕生後、ヘロデにねらわれてエジプトに避難しなければならませんでした。生まれた国からの避難です。このことは今も戦争などのために世界各地で起こり、おおぜいの人々が避難に追い込まれています。わたしたちはそうした人々のために祈りをささげています。そして苦難の中にある人々のための支援が呼びかけられています。そうした支援の大切さは聖書の中に書かれています。旧約聖書レビ記19章には「畑の隅まで刈り尽くしてはならない。落ち穂を拾い集めてはならない。これらは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。」とあります。ルツ記のルツもこれによって助けられました。2000年以上前に書かれた聖書が今のわたしたちの生き方に確かな答えを与えてくれます。この2023年も聖書の御言葉に聞いて「地の塩」「世の光」として歩みたいと願います。

